

信仰者・研究者として世界の紛争にどう向き合うか

私たちにとっての「アジア・太平洋戦争」戦後 80 年
志学会リトリート分科会

鈴木寛 (Hiroshi Suzuki)

国際基督教大学

August 23, 2025

信仰者・研究者として世界の紛争にどう向き合うか

紹介文

1945年の広島・長崎の原爆、アジア・太平洋戦争敗戦から、80年を迎えました。世界では、さまざまな地域で、さまざまな形で紛争・戦争が起こっています。研究者でもある、私たち信仰者は、どのように向き合っていたら良いのでしょうか、おひとりお一人の様々な疑問や意見に耳を傾けながら、ご一緒に考えてみたいと思います。
(鈴木寛)

2022年の志学会リトリートでも「国際情勢」というタイトルで分科会を担当しました。世界の状況はより複雑になっているように見えますが、探究者でもある、研究者としての立場もたいせつにしながら、一人一人がどのように向き合っていたら良いのか、ともに考えたいと思います。

個人的には、アジア・太平洋戦争については、1969年高校一年生の頃から考え、わたしの心の、そして行動のとてもたいせつな部分を占めてきたように思います。私の経験もお話しし、みなさんのお考えも伺いたいと願っています。

分科会プログラム

① この分科会について：テーマについて

by HS

② 自己紹介

- お名前・所属 or お仕事・専門
- 三つのうちのどれか、またはいくつか
 - A. 国際情勢・国際紛争で一番気になっていること
 - B. 戦後 80 年に考えること
 - C. 最近、困っていること、悩んでいること、とても嬉しかったこと
- デスカッション：質問・疑問・考えたいこと

③ 研究・教育をしてきた、信仰者として、わたしは、なにをたいせつにして、どう向き合ってきたのか

by HS

～神様に愛されているものとして～

④ 戦後 80 年、戦争責任、加害について

by HS

～歴史と共に生きる日本人として、キリスト者として～

⑤ ディスカッション、質疑

～世界の課題とどう向き合っていたらいいのか～

テーマについて・紹介文について

国際情勢について信仰者としてどう考えるか

- 世界中で困難・紛争・戦争が広がっているように思われる
- (信仰者として～キリスト者として) + 研究者としてひととして神様に愛されているものとして、どのように向き合うか

紹介文について

1945年の広島・長崎の原爆、アジア・太平洋戦争敗戦から、80年を迎えました。世界では、さまざまな地域で、さまざまな形で紛争・戦争が起こっています。研究者でもある、私たち信仰者は、どのように向き合っていったら良いのでしょうか。私が学び・考え・歩んできたことをお話ししたあと、おひとりお一人の様々な疑問や意見に耳を傾けながら、一緒に考えてみたいと思います。(鈴木寛)

自己紹介・ディスカッション

自己紹介

お一人 3 分以内

- お名前・所属 or お仕事・専門
- 三つのうちのどれか、またはいくつか
 - A. 国際情勢・国際紛争で一番気になっていること
 - B. 戦後 80 年に考えること
 - C. 最近、困っていること、悩んでいること、とても嬉しかったこと

ディスカッション

- 質疑、聞いてみたいこと
- 世界の課題とどう向き合っていたらよいのか

わたしについて

- 2022 年のリトリートでも依頼されたとてもむずかしいトピック [\[リンク\]](#)
 - Be available, stay vulnerable!
- 履歴：考え方は、わたしの歩んできた道に強く影響されている
 - 信仰は一つでも、みなさん方、一人ひとりの考え方¹が異なるのは当たり前
- ① 1953 年生まれ、習近平と同じ年、プーチンのひとつ下 彼らの人生は？
- ② 1969 年高校生時代に学園紛争を経験・様々な問いについて考え始めた
 - 理不尽だと思われる法を犯す決断をする条件は如何
 - わたしがイスラム原理主義の家庭や共産党員の家庭に生まれていたら
- ③ 1970 年に貨物船で教会の青年会のメンバーと 53 日間東南アジアを旅行
 - 戦争を経験しなかったわたしの時代のものにとって戦争責任とは
- ④ 1977-1980 年 アメリカ留学（数学で博士）
 - あまりにも違う・分かり合えるとは？ 案外共通点もある
- ⑤ 1987 年 フィリピンのエドゥサ革命の一年後に国の派遣でマニラで教鞭
- ⑥ 1991 年 8 月 19 日 ソビエト連邦の崩壊のクーデターのときモスクワに滞在
 - 特に、この少し前から以降の、ロシアの状態に注視している
- ⑦ 2002 年 9 月 11 日 アメリカ同時多発テロのときに、アメリカに滞在
 - 宣教団体 (IFI) で講演：Why are Japanese Christians so few?

¹神様が一人一人をどのように愛し、導いてこられたかは異なり、その応答はさまざま

研究者・キリスト者・神様に愛されているものとして

たいせつにしたいこと

- 研究者^a：探求者（さがしもとめるもの）
 - わかった気にならず、謙虚に。単純化バイアス排除
 - 違った視点を理解する訓練をしている（日本だけ・クリスチャンだけの視点ではなく普遍性と、すべての人と共通に語れることばをたいせつにする）
- 信仰者^b：たいせつなことをたいせつにして生きるもの
 - 神に愛されているもののひとりとして：自分視点以外の視点、他者視点、創造者である愛の神の視点、イエス・キリストの視点を求めつつ
 - 人間の理解する）正しさを相対化して日々を生き生かされているものとして生きる

^a志学会：キリスト教信仰を有する若手研究者や、研究職またはそれに準じる専門職を目指す大学院生（または学部生）を励まし支援する任意団体 [[リンク](#)]

^b志学会リトリート分科会（2020 年）「わたしの 40 年：研究・教育・大学行政」 [[リンク](#)]

キリスト教信仰（愛の宗教）

聖書から

- マルコ 12:29-31 イエスはお答えになった。「第一の戒めは、これである。『聞け、イスラエルよ。私たちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の戒めはこれである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる戒めはほかにない。」
- ヨハネ 13:34,35 あなたがたに新しい戒めを与える。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることを、皆が知るであろう。
- コリント第一 13:13 それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残ります。その中で最も大いなるものは、愛です。

歴史と共に生きる日本人として、キリスト者として

毎年、夏に思うこと、今年は戦後 80 年、戦争というと...

- 広島（8月6日）・長崎（8月9日）の原爆被害に関連したニュースが多い
- 沖縄（6月23日にむけて）の、県民の被害のニュースは多くなって来た
- 東京大空襲（3月10日）などの空襲被害のニュースはある
- 平和運動では、護憲・九条堅持が強調される
- 加害について伝え、考える記事は少ないのではないか

確かめてみよう

- 新聞などのメディアでは、加害の記事はあまり掲載されていないのか
- 戦争責任についての首相談話は
- キリスト教会の戦争責任について
- 戦後に生まれたものたちにとっての戦争責任とは

戦後80年（被害・加害）メディアの報道

Part I

朝日新聞

- 連載記事：（戦後80年） 2025.8.19 時点で 544 件
- 連載記事：（百年 未来への歴史） 2025.8.19 時点で 32 件
- 連載記事：（戦争と政治家 戦後80年の証言） 2025.8.19 時点で 5 件
- 石破茂：（多事奏論）詫びる首相 クリスチャンを自認、胸の内は 田玉恵美
- 石破茂：「浦上を最後に」祈り込めた首相 永井博士の言葉引用「世界にも知ってほしい」 長崎被爆80年
- （インタビュー）アジアとの向き合い方 アジア外交に詳しい元外交官・小倉和夫さん
- インタビュー記事にも多数：作家・奥泉光、映画監督・塚本晋也さん等
- [参考図書]（ひもとく）戦後80年、証言から記憶へ 自らの体験を自らの手で検証する 吉田裕
- 朝日新聞ポッドキャスト [[リンク](#)] の番組やデジタル版^a

^a複雑な内容を含む、加害・首相談話などさまざまな議論がかなりある。ネット時代に、あまり届いていないようには思われるが

戦後80年（被害・加害）メディアの報道

Part II

NHK

- 太平洋戦争の年表:
<https://www.nhk.or.jp/archives/sensou/special/warmuseum/nenpyou/>
- 詳しい年表：<https://www.nhk.or.jp/archives/sensou/special/search/#year>
- 宗教の時間 戦後80年2回シリーズ 宗教は戦争責任をどう考えてきたのか
第1回（日本基督教団千代田教会牧師 戒能信生）：[\[リンク\]](#)（2025年8月17日（午前8:30）2025年9月30日（火）午後11:59 配信終了

配信終了までには是非

サイトはよく整理してまとまっており、アーカイブなども含め、証言もふくめ、映像も見ることができる。探さないと見ることはないのだろう。戦後80年ということで、実際に経験した人の証言は、このような記録でないと、聞いたり読んだりすることができなくなっている。

戦後に生まれの私たちにアジア・太平洋戦争の責任!?

- NHK: 石破首相² 全国戦没者追悼式 式辞「反省と教訓」反省の上に教訓があると思っており、ある意味で一体のものだ。[[リンク](#)]
- 朝日新聞：素粒子 2025・8・18 夕刊 生まれていなかったからと戦争責任を語らぬ人と、知らなかったからと裏金問題を秘書に押し付ける人の共通点。いやなことは忘れてしまえの「未来思考しぐさ」
- 一人娘が中学生だったころ『なぜ、日本と中国はなかがわるいの?』と聞かれて、戦争の時代の歴史を説明したことがあります。それに対する彼女の反応は『でもわたしたちが戦争をしたわけではないのだから、わたしたちに責任はないでしょう?』というものでした。日本史の専門家であるはずのわたしは、その疑問に正面からこたえることができず、しどろもどろの説明をしたことを、おぼえています。「語り伝えるアジア・太平洋戦争 第5巻 おわらない戦後と平和への道」文・監修 吉田裕 新日本出版社の“あとがき”

²金森 通倫（かなもり みちとも、「つうりん」のひ孫。金森通倫 安政4年8月15日〈1857年10月2日〉 - 昭和20年〈1945年〉3月4日）は、日本の牧師、伝道者、宗教家。別名はポール・カナモリ。明治初期の日本のプロテスタント派の3つの源流の1つである熊本バンドの中心メンバーの一人であった。晩年は湘南の嶺山に隠居し、原始的な洞窟生活をして「今仙人」といわれた。

日本人としての戦争責任

[私見]

- 日本人として、（または、日本に住み、多くの日本人と関わりの中で生きている、私たちは）いまの日本と将来の日本に関して、一定の責任がある。
- 日本人にも、それ以外のひとたち、特に、アジアのひとたちに、大きな苦難を与えた、アジア・太平洋戦争について学び、アジア・太平洋戦争において日本人がしたこと、および、その背後にあるものから、学び、問い、考え、改善し、さらに世界に発信していく責任がある。（自分たちは違うと預言者の墓や記念碑を建てているだけでよいのか マタイ 23:29-31）
- アジアのひとたち、そして、日本と戦ったひとたちは、どう見ているか。そのひとたちと、どのように、関係を構築していくかを考えると、反省と教訓から学ぶことは不可欠。生き方が問われる。（悔い改め、新しい命に生きる こと マルコ 1:15）
- 世界の中、アジアで、十分大きな力を持っている日本において、反省と教訓を活かして、世界の様々な紛争や戦争の中にいるひとたちのところを少しでも理解し、なにかができることを探り、活かす責任がある。（恵みを受けているものの責任 マタイ 7:1,2, 1 コリント 15:10a）

みなさんは、どう思われますか!?³

³わたしが高校生のとき貨物船で東南アジア旅行をしたときに考えたことも関係している!?

キリスト者として：さばくな

自分はどこにいるのか

- マルコ 1:15 「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて、福音を信じなさい」と言われた。
- マタイ 7:1,2 「人を裁くな。裁かれないためである。あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量られる。[ルカ 6:37]
- マタイ 23:29-31 律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたがた偽善者に災いあれ。あなたがたは預言者の墓を建てたり、正しい人の記念碑を飾ったりしている。そして、『もし先祖の時代に生きていたなら、預言者の血を流す側には付かなかったであろう』などと言う。こうして、自分が預言者を殺した者たちの子孫だと、自ら証明している。
- 1 コリント 15:10a 神の恵みによって、今の私があるのです。

自分は正しい側にいたい

自分は正しい側に置きたい。しかし、学ぶと、戦争に進んでいったひとたちと、自分とどれだけ違うか、自分はそこでそれを止めることができるのだろうかと考えるに至るのではないだろうか。つまり、人間としては、つながっている、歴史において、戦争責任をどう考えたら良いのだろうか。

NHK 太平洋戦争の年表（～1944）

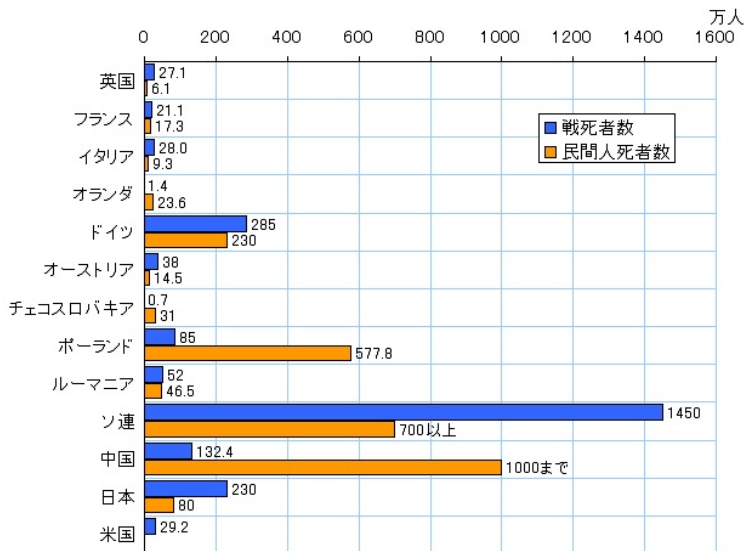
- 1931 年 9 月 満州事変
- 1936 年 2 月 2・26 事件
- 1937 年 7 月 日中戦争はじまる (盧溝橋事件)
- 1939 年 9 月 第二次世界大戦はじまる (ドイツがポーランドに侵攻)
- 1940 年 9 月 日独伊三国同盟が締結
- 1941 年 12 月 太平洋戦争はじまる (日本がマレー半島とハワイ真珠湾を奇襲攻撃)
- 1942 年 春 日本軍がフィリピン、インドネシア、ビルマなどを占領
- 1942 年 4 月 アメリカ軍による日本本土初空襲
- 1942 年 6 月 ミッドウェー海戦で日本海軍が敗北
- 1942 年 8 月 アメリカ軍、ガダルカナル島に上陸
- 1943 年 5 月 アッツ島の日本軍が「玉砕」
- 1943 年 10 月 学徒出陣壮行会
- 1944 年 3 月 日本軍「インパール作戦」開始
- 1944 年 6 月 アメリカ軍、サイパン島に上陸
- 1944 年 10 月 特攻隊による体当たり攻撃が始まる

NHK 太平洋戦争の年表 (1945～)

- 1945 年 2 月 アメリカ軍、硫黄島に上陸
- 1945 年 2 月 米英ソ「ヤルタ会談」
- 1945 年 3 月 東京大空襲
- 1945 年 4 月 アメリカ軍、沖縄本島上陸
- 1945 年 5 月 ドイツが無条件降伏
- 1945 年 7 月 米英中「ポツダム宣言」発表
- 1945 年 8 月 6 日 アメリカ軍が広島に原爆投下
- 1945 年 8 月 9 日 ソ連軍が満州国に侵攻 アメリカ軍が長崎に原爆投下
- 1945 年 8 月 15 日 玉音放送で戦争終結が伝えられる
- 1945 年 9 月 2 日 降伏文書に調印 連合国による日本占領
- 1947 年 5 月 日本国憲法施行
- 1948 年 11 月 東京裁判 (極東国際軍事裁判) の判決
- 1951 年 9 月 サンフランシスコ平和条約・日米安保条約調印
- 1952 年 4 月 日本が独立を回復 沖縄などはアメリカの統治下に⁴

⁴NHK 太平洋戦争の年表、詳しい年表

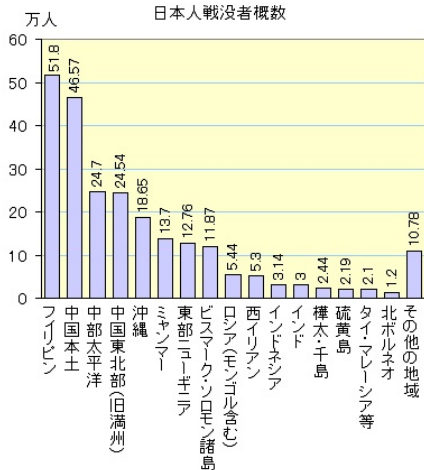
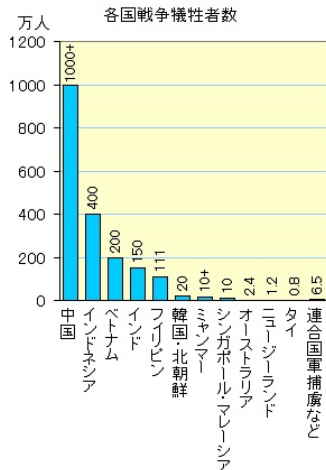
第2次世界大戦各国戦没者数



(資料) 英タイムズ社「第二次世界大戦歴史地図」、日本は東京新聞2006.8.15(厚生労働省資料など)

[リンク](#)

アジア太平洋戦争における各国戦争犠牲者数及び地域別日本人戦没者数



(注) 戦争犠牲者数の+は「以上」。資料出所: 中国は、中国国務院の「中国の人権状況について」から。インドネシアは、サンフランシスコ講和会議でのインドネシア政府見解から。ベトナムは、1945年のベトナム独立宣言から。フィリピンは、フィリピン政府調査から。タイは「図説ユニバーサル新世界史資料」帝国書院。その他は「キーワード 日本の戦争犯罪」雄山閣。日本人戦没者数概数は厚生労働省調べ。

(資料) 東京新聞2005年8月7日、毎日新聞HP(2015年8月、数字は証言する～データで見る太平洋戦争～)

[リンク](#)

日本が関係する明治以降の戦争の犠牲者数（人間自然科学研究所調べ）

- 日清戦争（1894 年 7 月～1895 年 3 月）：日本 1 万 4 千人、中国 3 万 5 千人？
- 日露戦争（1904 年 2 月～1905 年 9 月）：日本 11 万 5 千人、ロシア帝国 4 万 3 千人
- 第一次世界大戦（1914 年 2 月～1918 年 11 月）：
 - 連合国側（ロシア・フランス・イギリス・イタリア・アメリカ・ルーマニア・日本等）約 514 万 3 千人（内日本人 300 人）
 - 同盟国側（ドイツ・オーストリア・トルコ等）約 338 万 6 千人
- 第二次世界大戦（1939 年 9 月～1945 年 9 月）[兵士・市民・合計（万人）]
 - 枢軸国側：日本 [230,80,310]・ドイツ [422,267,689]・オーストラリア [25, 93^a, 118]・イタリア [30,13,43]・その他 [164, 0, 163]
 - 連合国側：ソ連 [1360,700,2060]・中国 [350,971,1321]・ポーランド [12, 591^b, 603]・ユーゴスラビア [50,121,171]・フランス [20, 40, 60]・イギリス [14,24,38]・アメリカ [29, 0, 29]・その他 [78,0,0]
 - アジア・太平洋各国：朝鮮 [20]・台湾 [3]・フィリピン [111]・ベトナム [200]・ビルマ [15]・マレーシア・シンガポール [10]・インドネシア [400]・インド [150]・オーストラリア [2.3]・ニュージーランド [1.2]・合計 [912.5]^c

^a内ユダヤ系 65^b内ユダヤ系 270^cアジア・太平洋の 910 万人と中国の人々の大多数は、日本が戦争を始めなければ死ななかった

アジア・太平洋戦争犠牲者数

- 日本の死者は、兵士 230 万人（国内 20 万人・海外 210 万人）、民間人 80 万人（国内 50 万人・海外 30 万人）。端数は不明だが、ほぼどの統計資料でも確定。
 - 東京大空襲 10 万人、広島原爆 14 万人、長崎原爆 7 万 4 千人、
 - 沖縄：民間人 9 万 4 千人、沖縄県出身の軍人・軍属：約 2 万 8,000 人、日本軍人（沖縄県出身以外）：約 6 万 6,000 人
 - 兵士の戦死者 230 万人のうち、140 万人は、餓死や病死とされる
- アジアでの死者は、中国以外 900 万人、中国 1000 万人以上は、確実とされる。中国は、3000 万人との説もある
- アメリカ人死者は 111,606、捕虜 21,580、イギリス 5,670、捕虜 50,016、オーストラリア 9,470、捕虜 21,726
 - 沖縄 12,500、硫黄島 6,821、フィリピン 4,200
- 資料
 - The Pacific War Online Encyclopedia [[Link](#)]
 - World War II Casualties (Wikipedia) [[Link](#)]
 - 英連邦戦没捕虜追悼礼拝 [[リンク](#)]
 - 第二次世界大戦の人命の損失 [[リンク](#)]

高校二年生の時の東南アジアへの貨物船の旅

1970 年日本から中古のブルドーザーや工作機械を積んでシンガポールやマレーシアのペナンでおろし、インドネシアのボルネオ島のバリクパパンとサマリндаに寄り、材木を積んで、韓国の釜山でおろすという 53 日間の旅でした。

旅行の準備の期間も、旅行中も、聖書や英語やアジアについての勉強会をしました。西洋の植民地からアジアの人々を解放するという名目で、アジアに進出し、労働力や資源を日本の植民地のように使い、戦争のために略奪し、虐殺も含め、日本軍が武力で現地の人たちを支配していった歴史を学び、日本人としての戦争責任の重さを感じ、アジアの人たちとどのように向き合えば良いのか正直不安になっていきました

訪問先では、教会を訪ね、また、さまざまな人たちと会いました。ある程度年配の方の多くは、日本人が嫌いで、憎しみを持っていたり、日本の経済的な発展を、妬ましく思っていました皆、非常に貧しい生活をしていて、さまざまな方法でお金を稼ごうとしている子供達や、性的なサービスをしないと生きていけない若い女性たちとも出会いました。しかし、必死に生きている姿を見て、私は、その人たちに日本人のしたことについて謝って回るといふより、「同じ時を、ともに生きるものとして、責任をもって生きていくことが、たいせつなのではないか」と思うようになりました。あまり良い表現ではないかもしれませんが、「違った世界で生きていても、この人たちのことを覚え、この人たちに恥ずかしくない生き方をして、生きていこう」と決断させられたということでしょうか。

日本人としての戦争責任

[再掲]

- 日本人として、（または、日本に住み、多くの日本人と関わりの中で生きている、私たちは）いまの日本と将来の日本に関して、一定の責任がある。
- 日本人にも、それ以外のひとたち、特に、アジアのひとたちに、大きな苦難を与えた、アジア・太平洋戦争について学び、アジア・太平洋戦争において日本人がしたこと、および、その背後にあるものから、学び、問い、考え、改善し、さらに世界に発信していく責任がある。（自分たちは違うと預言者の墓や記念碑を建てているだけでよいのか マタイ 23:29-31）
- アジアのひとたち、そして、日本と戦ったひとたちは、どう見ているか。そのひとたちと、どのように、関係を構築していくかを考えると、反省と教訓から学ぶことは不可欠。生き方が問われる。（悔い改め、新しい命に生きること マルコ 1:15）
- 世界の中、アジアで、十分大きな力を持っている日本において、反省と教訓を活かして、世界の様々な紛争や戦争の中にいるひとたちのところを少しでも理解し、なにかができることを探り、活かす責任がある。（恵みを受けているものの責任 マタイ 7:1,2, 1 コリント 15:10a）

みなさんは、どう思われますか!?⁵

⁵わたしが高校生のとき貨物船で東南アジア旅行をしたときに考えたことも関係している!?

まとめ：問い・願い

戦争当時生きていなかった私たちに、戦争責任はあるのでしょうか。戦ったひとたち、そして、苦しみ、多くひとたちを殺したアジアのひとたちとどのように向き合って、または思っ、さらに、世界のさまざまな課題のなかで、日常を生きていったら良いのでしょうか。

- 日本の過去の歴史、特に、アジアの人、海外の人と同じ時代と共に生きるためには、加害の歴史も含めて学んでほしい。
- 信仰者として、どのように、近隣の人たち、隣国の人たち、世界の人たちとどのように生きていったら良いか考え・祈りながら生きていってほしい。
- すべての人と、神様の前に、平和にすごすための生き方について考えてほしい。愛することとは、神様の義・国とは？
- 敬和学園大学新入生歓迎公開学術講演会から：愛・信仰・希望：[リンク](#)：40'50" から

みなさんは、どう思われますか!?

参考文献

最近読んだものから

- 「世界の壁・移民・紛争の全記録 国境アトラス」 デルフィヌ・パパン、ブルーノ・テルトレ共著、グゼマルタン・ラボルド 地図 岩田佳代子、エラリー・ジャンクリストフ訳、井田仁康日本語監修 日経ナショナル・ジオグラフィック
- 「アジアの独裁と『建国の父』 英雄像の形成とゆらぎ」 根本敬・粕谷祐子 編 彩流社
- 「なぜ『同意に基づく武力行使』が正当化されるのか」 村角愛佳著、京都大学出版会
- 「ユダヤ人の起源 歴史はどのように創作されたのか」 シェロモー・サンド 著 高橋武智監訳 佐々木康之・木村高子訳 ちくま学芸文庫
- 「アジア・太平洋戦争」 吉田裕著、岩波新書 1047
- 「語り伝えるアジア・太平洋戦争 第1巻～第5巻」 文・監修 吉田裕 新日本出版社

(ホームページの読書記録参照)

ありがとうございました
Thank you very much!